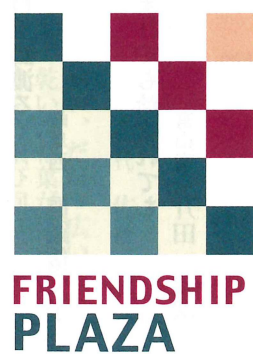


友愛の広場



FRIENDSHIP
PLAZA

エッセー、海外のロータリークラブ訪問記、時局雑感など。1,000字以内。関連写真があれば添付してください。

施設の子どもたちにもらった幸せな時間

東松山 山口 和範

鉄道開業150年に当たる2022年、当地区は世界ポリオデーの企画として、財団委員会と子ども家庭委員会を中心に「ポリオ根絶SLジャックプロジェクト」を開催した。10月16日、羽生市内の児童養護施設の子ども27人を招待し、他ロータリアンの家族など総勢約160人が参加。秩父鉄道SLパレオエクスプレスの一部車両を貸し切りにして、約2時間の列車の旅を楽しんでもらった。熊谷駅での出発式では、ロータリーのポリオ根絶活動について紹介した。

私は、児童養護施設とは両親のいない子どもが入る施設と思っていたが、同施設では、親がいても、虐待などにより一緒に住めない子が

半数以上を占めるということだった。それを聞いて、会う前は「心を病んでいる子が多いのかな?」「なじめなかつたらどうしよう?」などと心配したが、いざ会ってみたら、全くそう感じさせない子どもたちだった。皆元気で、無邪気で、かわいくて。

車両内ではお菓子にかじり付き、SLに手を振る人たちに手を振り返し、長瀨の絶景に見入り、昭和のおじさん・おばさんたちの「銀河鉄道999」の熱唱は聞き流し……(笑)。そしてわれわれロータリアンともいろいろ話をした。

秩父駅に到着すると、秩父ロータリークラブ(RC)の皆さんから子どもたちへプレゼントのサプライズが。秩父神社で昼食の秩父尽くし弁

当をおいしくいただいた後、ポリオチームと別れて長瀨に戻り、子どもたちにとって初めてのロープウエーで宝登山に登り、小動物公園で楽しいひとときを過ごした。

「ねえ、走っていい?」「これ(メーテルの金髪)かぶっていい?」「ヤマゲツチ、これ(お菓子)あげる」……。今回の旅はロータリーが子どもたちに与えたようでいて、実はわれわれが子どもたちから多くの幸せな時間を与えてもらったのだ、と気付いた。

宮沢賢治の小説「銀河鉄道の夜」にこんな一節がある。「僕もうあんな大きな暗の中だつてこわくない。きつとみんなのほんとうのさいわいをさがしに行く」。こう語ったジョバンニ少年のように、今回の旅を通じて施設の子どもたちがたくましく、そして優しく育ってほしいと願った。(第2570地区 埼玉県 不動産鑑定士)



SLから長瀨の絶景に見入る子どもたち